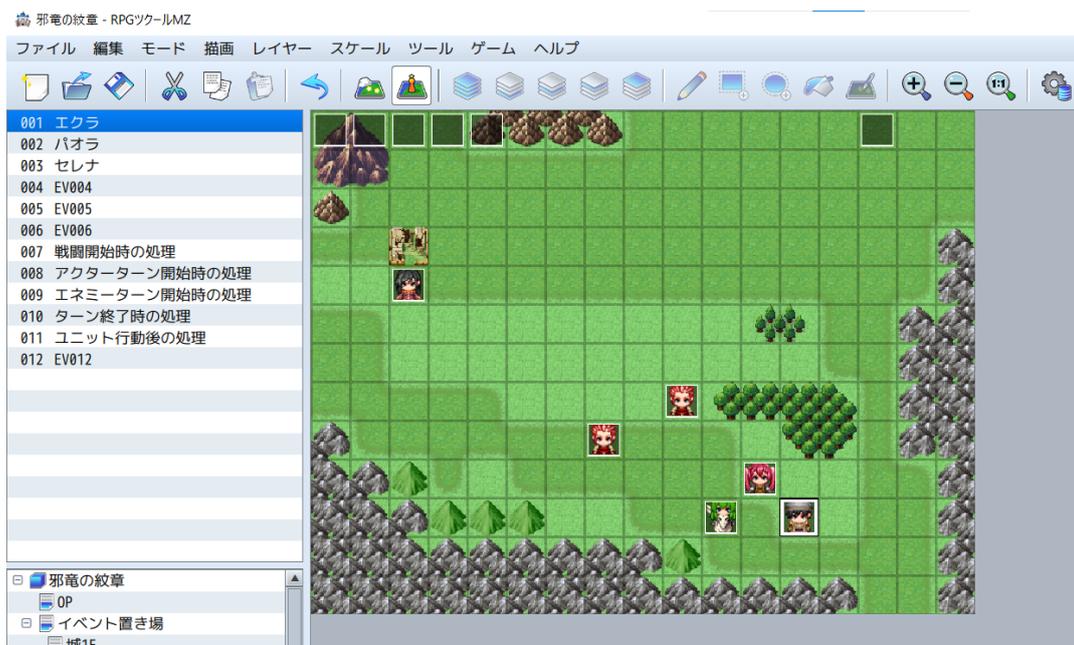


SRPG ギアでのユニット選択時に固有のボイスを再生させる方法

1. SRPG ギアの仕様の確認



まず SRPG ギアの基本的仕様について説明します。

このようなマップを作成した場合、マップイベントは

001 はエクラ

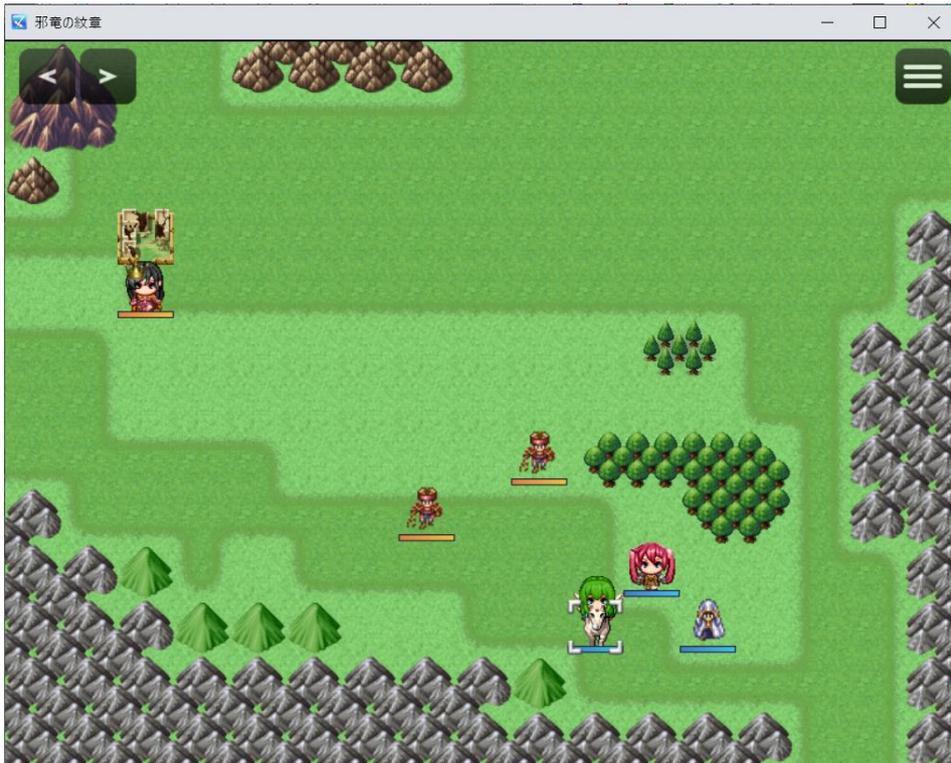
002 はパオラ、

003 はセレナ

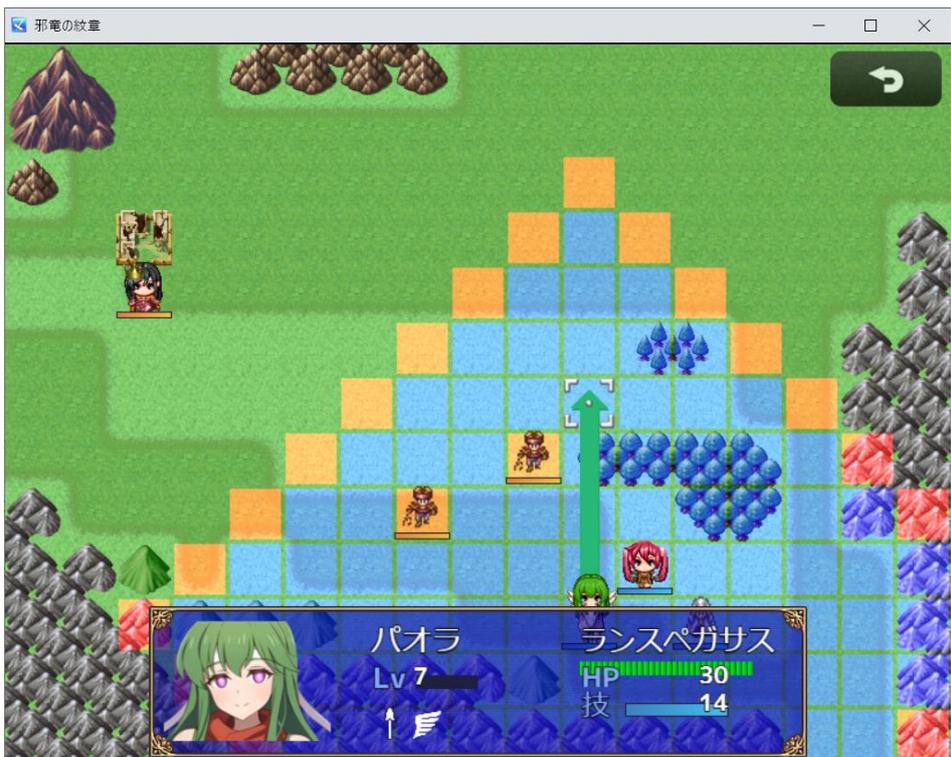
という風に設定されます。

このマップイベントの番号とアクターの対応は全ての章で共通させておくことをお勧めします。

一方で出撃させるユニットを任意で選ぶ形式の場合はこの方法は使えませんのでご注意ください。



実際に SRPG 戦闘を起動させるとこんなかんじになります。



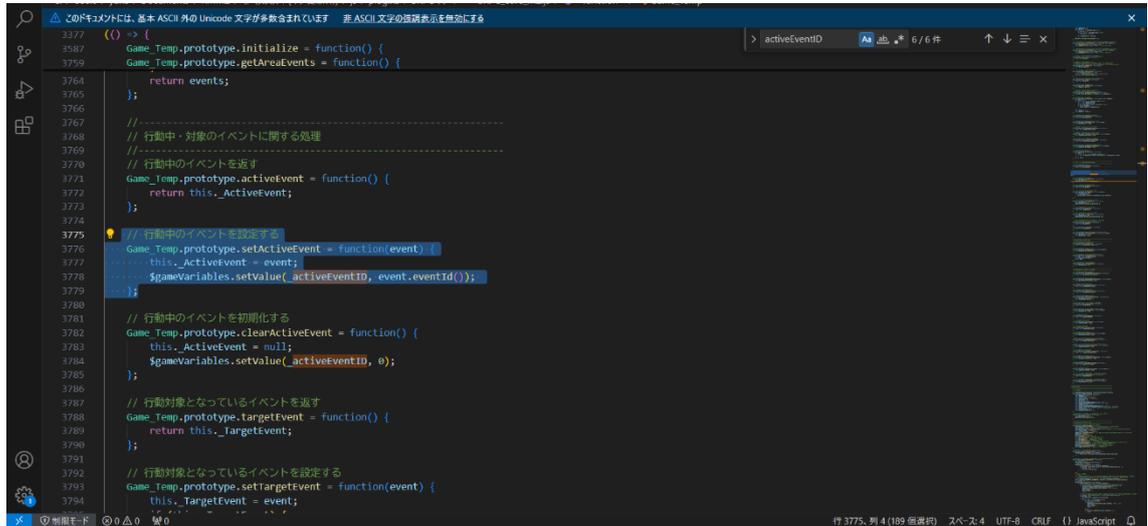
ここでパオラにカーソルを合わせ選択すると移動させることができる訳ですが、SRPG.Core には大変便利な機能がついています。

変数範囲	変数名	値
S [0231-0240]	0001:存在しているアクター数	3
S [0241-0250]	0002:存在しているエネミー数	3
S [0251-0260]	0003:経過ターン数	1
S [0261-0270]	0004:行動中のイベントID	2
S [0271-0280]	0005:攻撃対象のイベントID	0
S [0281-0290]	0006:戦闘時の相手との距離	0
S [0291-0300]	0007:アクターの番号	0
V [0001-0010]	0008:最後に行動したユニット	0
V [0011-0020]	0009:戦闘処理用	0
V [0021-0030]	0010:デモ:計算用	0
V [0031-0040]	Left : -1 Pageup : -10	
V [0041-0050]	Right : +1 Pagedown : +10	
V [0051-0060]		

F9 を押して変数の現在値を確認すると、選択したユニットのイベント ID が自動で変数に格納されるようになっています。(デフォルトでは変数 4 番に格納されます。)

この仕様を利用してボイスの再生処理を行います。

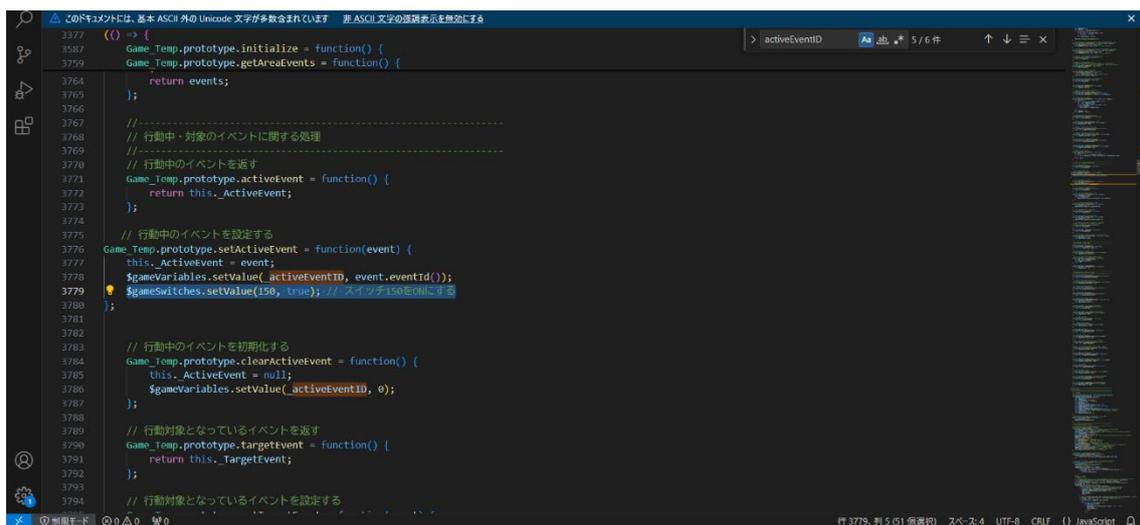
2. SRPG ギアを一部改変



```
3777 () => {
3787   Game_Temp.prototype.initialize = function() {
3759   Game_Temp.prototype.getAreaEvents = function() {
3764     return events;
3765   };
3766
3767   // -----
3768   // 行動中・対象のイベントに関する処理
3769   // -----
3770   // 行動中のイベントを返す
3771   Game_Temp.prototype.activeEvent = function() {
3772     return this._ActiveEvent;
3773   };
3774
3775   // 行動中のイベントを設定する
3776   Game_Temp.prototype.setActiveEvent = function(event) {
3777     this._ActiveEvent = event;
3778     $gameVariables.setValue(ActiveEventID, event.eventId());
3779   };
3780
3781   // 行動中のイベントを初期化する
3782   Game_Temp.prototype.clearActiveEvent = function() {
3783     this._ActiveEvent = null;
3784     $gameVariables.setValue(ActiveEventID, 0);
3785   };
3786
3787   // 行動対象となっているイベントを返す
3788   Game_Temp.prototype.targetEvent = function() {
3789     return this._TargetEvent;
3790   };
3791
3792   // 行動対象となっているイベントを設定する
3793   Game_Temp.prototype.setTargetEvent = function(event) {
3794     this._TargetEvent = event;
3795   };
}
```

先ほどのユニット選択時に対応するイベント ID が格納される処理は SRPG.core のこの部分で行われています。

そこで、



```
3777 () => {
3787   Game_Temp.prototype.initialize = function() {
3759   Game_Temp.prototype.getAreaEvents = function() {
3764     return events;
3765   };
3766
3767   // -----
3768   // 行動中・対象のイベントに関する処理
3769   // -----
3770   // 行動中のイベントを返す
3771   Game_Temp.prototype.activeEvent = function() {
3772     return this._ActiveEvent;
3773   };
3774
3775   // 行動中のイベントを設定する
3776   Game_Temp.prototype.setActiveEvent = function(event) {
3777     this._ActiveEvent = event;
3778     $gameVariables.setValue(ActiveEventID, event.eventId());
3779     $gameSwitches.setValue(150, true); // スイッチ150をONにする
3780   };
3781
3782   // 行動中のイベントを初期化する
3783   Game_Temp.prototype.clearActiveEvent = function() {
3784     this._ActiveEvent = null;
3785     $gameVariables.setValue(ActiveEventID, 0);
3786   };
3787
3788   // 行動対象となっているイベントを返す
3789   Game_Temp.prototype.targetEvent = function() {
3790     return this._TargetEvent;
3791   };
3792
3793   // 行動対象となっているイベントを設定する
3794   Game_Temp.prototype.setTargetEvent = function(event) {
3795     this._TargetEvent = event;
3796   };
}
```

変数 4 番にイベント ID を格納する処理の後にスイッチを一つ足しました。

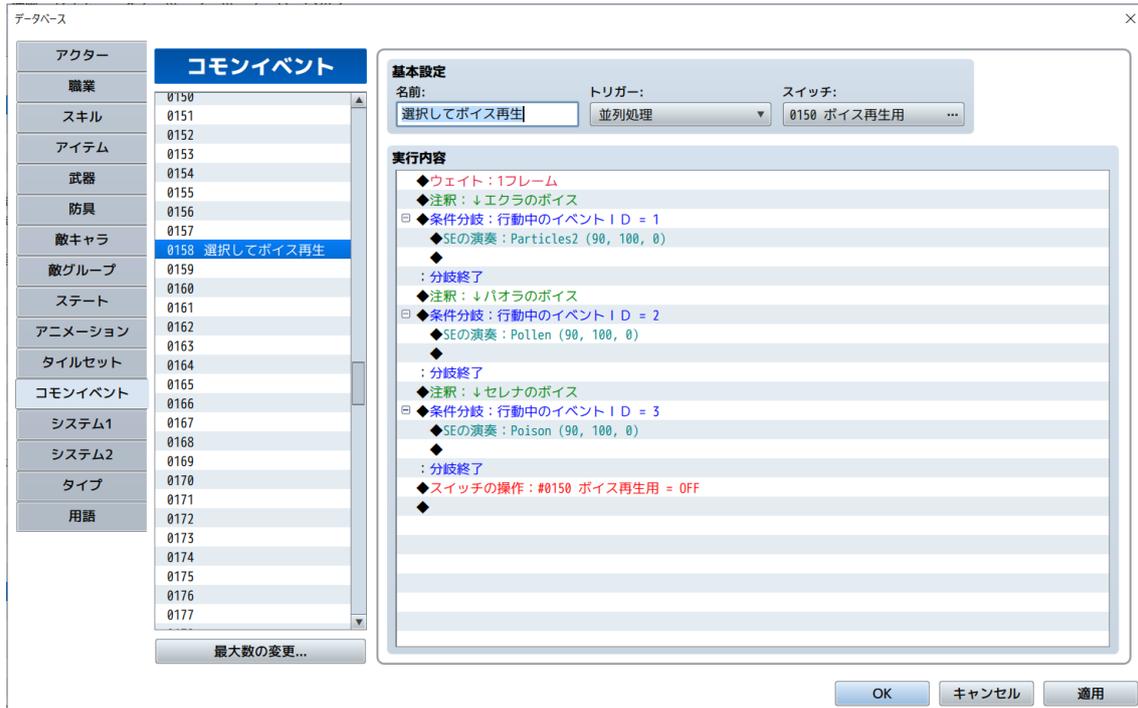
`$gameSwitches.setValue(150, true); // スイッチ 150 を ON にする`

今回はユニットを選択するとスイッチ 150 番が自動で ON になるように設定しました。この番号についてはお好みの数値で問題ありません。



そうするとユニットを選択すると自動でスイッチ 150 番が ON になるようになりました。ここまですればあとは簡単です。

3. 並列処理を利用して SE を再生



後は先ほどのスイッチを利用して起動する並列処理のコモンイベントを作ってしまうと完成です。

ユニットを選択した時点で変数 4 番にイベント id は格納されているので、そこから条件分岐をすることで任意のキャラに好きなボイスを再生させることが可能です。

ボイス再生関連を全てコモンイベントで管理することで、ランダムで複数種類のボイスを再生したり、淫乱度に応じてボイスを変化させることも可能となりました。

かなり単純な方法ですが競合や負荷はある程度軽減できると思うのでよろしければご利用ください。